

地元紙が「生き生き留学生ライフ」紹介



米イリノイ大で夏期留学プログラムに参加 栗林 雅史くん (経済2)

米イリノイ大学アーバナ・シャンペイン校での夏期留学プログラムに参加した栗林雅史くん(経済2)が滞在中、地元新聞「The News Gazette」に登場。「Crash course in English」の見出しで、生き生きとした留学生活が披露された。

栗林くんは、英語の文法を7年、英会話を2年勉強してきたが、英語の発音やリズム、スラングを理解することが難しい。英語の上達には実際に街へ出てマーケットや郵便局で使う訓練が有効である—など、インストラクターや他大学留学生の発言と共に紹介された。「いずれほかの英語圏へ長期留学をしたい。将来は英書の日本語翻訳を」という夢も明かされている。

【ニュース専修11月号14面】

『きのこアドバイザー』の資格取得 - 最年少で資格取得 - 植平 悠史くん(文4)



植平悠史(ひろふみ)くん(文4・宇都宮東高)が日本特用林産振興会認定の『きのこアドバイザー』となった。現在約180人の同アドバイザーはほとんどが研究者や栽培農家。植平くんは、文系の現役大学生として最年少の資格取得者となり話題となっている。

自然を愛する両親に3歳頃からきのこ採りに『連れて』いかれるうち、その魅力に取りつかれた。新潟・越後湯沢のホテルに就職が決まっているが、そこでは自然学校なども開いているため、好きなきのこの知識を生かして、さらに自然の素晴らしさを宿泊者に伝えていきたいと、この資格を取得したという。

「山上精次先生も「きのこ」好きで心理学研究室では、いつも収穫品の話で盛り上がってます。「生田緑地」マイタケ＝写真＝などがたくさん生えているんですよ。すぐれた健康パワーは、痴呆の治療にも有効との研究例も報告されています。山では森林浴の効果もありますから、多くの人に正しい知識を持って楽しんでほしい」ときのこの良さをPR。
現在は卒論の仕上げに忙しく、「この時期、実家に帰ればさまざまなきのこを採りにいけるのに、と気が気でないんです」と笑いながら話してくれた。

【ニュース専修11月号14面】

健康フラッシュ「健康相談」ちょっとその前に！

寒い季節になると保健室の窓口も込み合うようになります。「どうしましたか？」と症状を尋ねると「何か変です」「かなりつらいです」「病院で薬をもらったけど効きません」等、あいまいな答えが返ってきます。

「とにかくいつもと違うので何とかしてほしい！」という気持ちはよく分かるのですが、これでは症状が全くわかりません。「風邪です」と自分で診断する人もいて、これも何も伝えていないのと一緒にです。必要なことは、いつからどのような症状が出て、どのように変化していったかという経過をきちんと伝えることです。

ある医師は「適切に説明された症状を聞けば、その段階で3分の2は診断をつけることが出来る」と言っています。これは、血液やレントゲンの検査等によって判明する病気の確率よりも、ずっと高いそうです。ですから健康相談をする時には、事前に必要な情報を提供出来るように準備するとよいでしょう。例えば、辛い症状や質問したいことをあらかじめメモにまとめておく方法もあります。一番困っている症状を具体的に隠さず正確に話すことによって、効果的なアドバイスが受けられます。そのためには、普段から自分の健康に関心を持ち、早めに身体の異変に気づくことが大切です。

さて、皆さんは現在の体重・平熱・脈拍・血圧・食欲等すぐに答えることが出来ますか？まずは自分の体調を時々チェックしてみましょう。自分の健康を守るのは、皆さん自身ですよ！（保健室）

【ニュース専修11月号14面】